

## 金曜の会報告

- 1 期日 10月4日
- 2 倉敷労働会館
- 3 参加者 O,TA,YO,CH,AK,AR
- 4 内容
  - ・ 解釈「ごんぎつね」(AR)
  - ・ 戸田学級(学年)歌唱映像「大地讃頌」(YO)

### 前半

2場面の終わり「そのばん～」の解釈をしました。中心人物の中で、大きな変化。でも、大きな課題をつくりにくい。こうした場所は、ある程度、知識として押さえることも、進度を考える意味でも必要かと感じました。しかし、ただ教え込むのではなく、子どもの興味を引く形で教え込みたい。そのためには、おかしさを見付けさせる、かんじさせることが重要ではないかと感じました。そういった、方向性をもった問題づくりをしていくことが、他の場面での課題づくりに生きてくるのではないかと感じました。

戸田先生の学年での歌唱映像は、私には完全に消化不良です。世界が違いすぎて何も見えない分からないというのが正直なところ。どうすれば、ひとりでも声の下がるのを減らせるのか、また機会を見つけて実践を検討していただきたいと思います。文責 AR

### 後半

「ごんぎつね」12段落で、ごんが飛び上がった原因は直前の『びっくりして』にあります。何にびっくりしたのかを考えました。『ぬすっと(内容)』なのか『どなり立てられた(音量)』なのか、両方ということも考えられます。ここでは、『中身を聞いているかどうか』という対立を組み、『ふりすてて』につなぎ、そのままだと盗っ人になってしまう状況を何としても避けようとしているごんに気づかせていくことが大切です。どこをやりたいかということだけでは、解釈は進みません。授業者は、どこでどういう対立を組み、どの言葉で解決させていくかを考えておく必要があります。前回の例会の内容から言えば、どの言葉を証拠に使わせるために、どういう対立(問題)を作るかを考えて、解釈を進めていくということです。

戸田先生が指導された『大地讃頌』(5年生)は、やはりすごいものでした。声(音)が全く落ちないしっかりした発声があるのだと思いました。無駄な動きがなく、大袈裟な息継ぎもなく、でも下腹に力が入ったしっかりした呼吸が子ども一人一人に身に付いているのでしょうか。呼吸にもいくつかのやり方があるということにも驚かされました。

直後に見たYOの指導には、まだまだ課題が山積していることがよく分かりました。両パートともに、

まだ音がとれていないことや発声が不十分なことなど、様々です。でも、子どもたちが一生懸命しようとしていることがありがたいです。来週も、頑張ります。文責 YO